

編集後記

21世紀初年度の年報ができた。

前世紀末から今世紀にかけて、世界と日本のスポーツ状況は大きく変化した。メディアの発達で、スポーツのグローバル化はいつそう進んだ。その一方で、地域スポーツとの関連も強調され、スポーツにおけるグローバルイゼーションとローカライゼーションの視点が重要になっている。

特に日本国内では90年代はバブル経済の崩壊以降の不況、大企業の多国籍企業化による海外進出と国内産業の空洞化、失業率の増大などにより、高度化を支えてきた企業のスポーツクラブの相次ぐ休部・廃部による競技力の相対的な低下があり、大衆化レベルでは不況だけでなく、新自由主義化政策による自治体のスポーツ政策の市場化によって、国民のスポーツ参加が萎縮した。そして日本のスポーツは全体的に縮小したまま21世紀に突入した。

こうした現状を転換させ、国民のスポーツ権を発展させるために、我々の研究の果たす役割はますます重要になっている。

2001年度ではないが、今年の6月には日韓共催のサッカー・ワールドカップも行われ、選手たちの高度なプレーのみならず、世界のサポーターの交流も積極的に行われた。日韓両国の政府レベルの政治的な軋轢がある中で（そしてその主な責任が日本政府の歴史的な反省を踏まえぬ発言が原因であるけれども）、民間レベルのこうした交流が両国民の相互理解に大きく貢献した。

さて、我々の日常はゆったりと研究に没頭できうる現状ではなくなっている。迫り来る独立行政法人化へ向けて、教育評価、研究評価、その外部評価、それらのための諸改革のための会議会議の連続の中で、多忙感はかなりなものがある。また、学内の要職に就任する者も増えた。それはそれで大切であるから、しっかりと対処せねばならないことは言うまでもないが。

我々のスタッフも少しずつ世代交代が進みつつある。ベテランと若手の共同行動を発展させ、研究の活気をよりいつそう進展させたいと思う。（研究部長 内海和雄）

研究年報 2002

21世紀のスポーツの課題へ向けて

2002年9月1日 発行

編集・発行 一橋大学スポーツ科学研究室

〒186-8601 東京都国立市中2 - 1

042-580-8270

www.higashi.hit-u.ac.jp/~sports/
